電気電子工学委員会 URSI 分科会
電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会（第 26 期・第 5 回）

議　事　要　旨

日　時：2026 年 9 月 18 日(金) 14：00～15：00
場　所：オンライン会議 (Zoom)
議　題：

1. これまでの活動、経緯	資料 5-2, 5-3
2. 小委員会の活動の今後	
・学会活動（国際会議、研究会など）	資料 5-4
・標準化、法制化のための企業、省庁（総務省など）との連携	資料 5-5、5-6
・他分科会・他小委員会との連携	資料 5-7
・活動予算獲得、プロジェクト申請等	資料 5-8
3. 次期小委員会委員長の候補選出	資料 5-9
委員名簿	資料 5-10
4. その他（次回予定など）	

・ **出席者(定員 26 名)**：**出席(16 名)**：河野　隆二、八木　谷聡、安在　大祐、小林一哉、小林　匠、、多氣　昌生、菅野　敦史、久野　成夫、眞田　幸俊、曽根　秀昭、西岡　未知、平松　正顕、藤野　義之、藤元　美俊、寶迫　巌、李還幇
欠席(10 名)：高田潤一、宋　航、新永　浩子、伊藤 公一、川西　哲也、小嶋　浩嗣、斎藤　享、鈴木　恭宜、廣川　二郎、細川　敬祐
(敬称略)

・ **配付資料**：
- 資料 5-1　第 5 回議事次第案
- 資料 5-2　第 4 回議事要旨
- 資料 5-3　2025 年採択未来の学術振興構想「RS に基づく電波利用による SDGs 達成のハーモナイゼーション」概要(区分Ⅱ-117)
- 資料 5-4 URSI-JRSM2026(Tokyo), GASS2026(Poland), IEEE AP-S/JNC-USNC-URSI2027(Kyoto), AT-RASC2027(Spain), AP-RASC2028(Toyama)
- 資料 5-5　高信頼無線 BAN 新標準規格 IEEE802.15.6-2026 における Dependable 基準、技術
- 資料 5-6　総務省情報通信審議会審議資料
- 資料 5-7　URSI 分科会各小委員会への依頼
- 資料 5-8　関連プロジェクト申請など
- 資料 5-9　次期(第 27 期)小委員会委員長の候補
- 資料 5-10　電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会委員候補名簿（9 月 28 日版）

冒頭で、委員長の依頼により幹事補佐の小林匠氏が議事を司会することが伝えられた。また、途中退出の委員がおられる方がおられることから議題 3 を先に審議することが提案され、異議なく承認された。

議題 3. 次期小委員会委員長の候補選出

・小林匠幹事補佐より、資料 5-8 を用いて次期(第 27 期)小委員会委員長の候補を URSI 分科会に 9 月 25 日までに報告する必要があることなどが説明され、幹事団案として現委員長河野隆二氏を候補とする案が提案された。URSI 次期会長小林一哉委員より、経緯を含む現委員長の継続を推薦する旨、その利用などが述べられた。その結果、異議なく候補を URSI 分科会に推進することが決定した。

・候補者の情報

- 氏名　河野　隆二
- 所属　YRP 国際連携研究所
- 職名　理事、横浜国立大学名誉教授

議題 1. これまでの活動、経緯

・資料 5-2 第 4 回議事要旨、資料 5-3 2025 年採択未来の学術振興構想「RS に基づく電波利用による SDGs 達成のハーモナイゼーション」概要(区分Ⅱ-117)を用いて、河野委員長より、前会合での議論、2025 年の改定継続申請の概要、継続採択（本委員会後の 9 月 18 日づけ日本学術会議公開幹事会報告で公開済）が説明された。

議題 2. 小委員会の活動の今後

・学会活動（国際会議、研究会など）

河野委員長より、資料 5-4 を用いて URSI-JRSM2026(電通大)における基調講演や、URSI 主催/共催による国際会議 GASS2026(Poland), IEEEAP-S/JNC-USNC-URSI2027(Kyoto),AT-RASC2027(Spain),AP-RASC2028(Toyama)や国内学会における活動を推進することに、各委員に発言を求めた。多氣委員より、IEC などでの活動を踏まえ、安全に関するステークホルダーによる多様な視点に基づく議論を行ってきた経験から本小委員会で何ができるかが重要であるという意見があった。真田委員より、電子情報通信学会大会などの多様な研究会が参加する学会での活動も有効であるという意見があった。寶迫委員より、電波に関する国研として NICT における役割も検討していく必要がある旨のご発言を得た。

・標準化、法制化のための企業、省庁（総務省など）との連携

河野委員長より、資料 5-5 を用いて電波商用利用の標準化の例として、医療用・車両用無線ボディエリアネットワーク（BAN）の標準規格 IEEE802.15.6-2026 を例にとり、周波数を共用するシステム間干渉の分類と、分類ごとの干渉対策技術（物理層、MAC 層など）の研究開発、標準化を通じた、新技術の研究開発、社会実装、ビジネスプロモーション、人材育成などの論理的な審議の方法などについて、紹介された。

また、資料 5-6 を用いて、総務省情報通信審議会における UWB レーダー、ITS、および無線電力伝送（WPT）に関する電波利用に関する法制化について、WPT に関して主体的に係わられている藤野委員より、審議の現状、一次利用・二次利用に限らず実際の与干渉・被干渉の議論のために運用調整協議会を設置し、合意形成を行う過程などの概略、説明を受けた。

平松委員より、電波天文などの立場で、これまでの審議などにおいて多数決で押し切られたことはなかったが、被干渉・与干渉の視点に基づく更なる解析、一部答申後のモニタリング、情報共重の必要性などの意見があった。

・他分科会・他小委員会との連携

河野委員長より、資料 5-7 で各小委員会にアンケート形式で、本小委員会への意見、要望、具体的な課題提案、さらに電波利用のハーモナイゼーションの基点となる分離融合学術領域であるレギュラトリーサイエンスに関する知識、専門家育成、大学ごとのカラーなどについて、広く問う質問状の原案が示された。

また、共存環境における計測、シミュレーション、干渉を与えない技術が研究テーマになり、産業上のコストにおいても実現可能な技術開発、標準化、法制化を通じた持続可能な電波資源の利用について、広く意見を求める内容である旨、。原案の加筆修正を委員に依頼した。

・活動予算獲得、プロジェクト申請等

本小委員会の活動促進に資する外部資金獲得の可能性、共同プロジェクト申請について、資料 5-8 を用いて、申請可能な公募情報例について説明がなされ、他にもある場合に委員より情報提供を求められた。

以上